

連、時間短縮への効果などを検討した。対象は既に発表の生活時間構造の調査対象に同じ。

3. 炊事および育児との組合せが共通的に多い。また設備の低さから、自動的な炊飯や洗濯との組合わせが少く、従って、厳密な同時併行よりは断続的挿入が多いこと、特に燃焼器具の低質が炊事における手待ち時間を生じ、食事形態の定型化・単純さと相まって必然的に他作業の挿入される状態を捉え得た。いわば、その限りでの能率である。1回の挿入時間は5分以下が最も多く、10分以上になるのは、生産労働と組み合わされた場合である。経営規模形態・季節差などが主婦の家事担当率を決定し、直接にまた間接的に、併行作業のあり方に影響を与えている実態を報告し、この分析方法を吟味したい。

C-15 家事労働における併行作業について

福島大 岡村 益

1. 生活時間調査において、同時に2種の異なる行為ないし作業を行っている例の取扱いについては定説がまだ確立されていない。また家事作業能率増進の1方法として、併行作業を行うことが説かれて来たが、如何なる条件下においてかの指示を欠いていたと思う。そこで家事作業に併行する行為ないし作業の組合わせ、時間の長さや頻度等の実態を調査し、上記問題考察のための示唆を得ようとした。

2. 家事作業が時間的質的に生産労働から圧迫され易い農家に例をとった。まず聴取によって、次に主婦の生活行為を1分単位の追跡記録にとり、家事作業に併行する行為および作業の種類、時間的分布、物的条件との関